

新しい時の到来

2000年から美津子さんを通して、子羊の群れに「黙示録さんび」が与えられるようになりました。天から降り注ぐように次々に与えられる天のさんびは、「神様の愛」そのものです。私はこのさんびを通して、自分の中にあるドロドロしたものが一つずつ光にさらされ、風のように軽くされるという体験をしてきました。そして「黙示録さんび」によって、群れ全体が次々に新しい次元に引き上げられてきたことを知りました。

昨年8月、「新しい時」を感じさせる出来事が私に起こりました。私は数年前から自宅で「英語家庭集会」をしていますが一昨年前の秋、ピーター先生の「イザヤ55章5節の時が到来した」という言葉をお聞きしました。その時私は近い将来世界中から多くの人々が「さんびの信仰」に集まって来ると直感したので、「英語集会を広く世界に向けて開きます」と主に宣言し、そしてそれまでなおざりにしていた英語に真剣に向かうため、昨年1月から英会話スクールに通い始めました。先生はオーストラリア人の30代の男性でした。

「私はクリスチャンなので、信仰のために英語を習いたいのですが」と先生に話すと、彼は自分は無神論者だと言います。私は少し迷いましたが、主に祈って決めたスクールだったので、主を信頼してレッスンを始めました。初めのうちは先生に信仰の話もできず、たとえ話したとしても、彼は全く受け入れない様子でした。でもレッスンを進めていく内に、私たちの信頼関係が生まれ、彼は自分のことを話してくれるようになりました。先生の話によると、彼のお父さんは数年前に自ら命を絶ち、彼はそのショックからなかなか立ち直れなかったそうです。考えた末に彼は大学の講師を辞めて、日本人の奥さんと一緒に1年前日本に来て英会話スクールを始めたということでした。私はその話を聞いた時、言葉が出ませんでした。私には彼の心の傷口から真っ赤な血がぼたぼたと流れ出しているのが見えるようでした。そしてその情景と重なるように、十字架に架けられたイエス様の血潮が見えました。私はイエス様が彼に「わが子よ、わたしがお前のために十字架上で死んだのだから、お前の苦しみはすでに十字架でとられたのだよ。さあ、わたしの元に来なさい。わたしの愛の内に入りなさい」と言っておられるように感じました。みことばが私の心に響きました。その時から、私は彼の救いを祈るようになりました。

すべて重荷を負うて苦労している者は、わたしのもとに来なさい。あなたがたを休ませてあげよう。
(マタイ 11:28)

イースターが近づいたある日のことです。英語のレッスンに行くと、先生がチョコレート製のイースターエッグを差し出して、「これが何だか分かる？」と尋ねました。私はそれがイエス・キリストの復活を記念してプレゼントする物だと知っていましたが、なぜか的外れな答えをしてしまいました。すると先生は得意気にイースター（復活祭）について話し始めました。そして「このイースターエッグを英語のレッスンに来る子供たちにプレゼントしようと思うんだ。欧米の文化を知ってもらうためにとても良いからね。それから、これも子供たちに見せて教えようと思うんだ」と言って、イエス・キリストの絵を数枚机の上に並べました。「君はキリストを信じていると言っていたから、僕のアイデアを知ったら喜んでくれると思ってね」とうれしそうに言いました。そして私にも大きなチョコレート製のイースターエッグをプレゼントしてくれました。その時私は、彼が自分の知性や理性の領域では神を信じていないと思っていても、心の深いところではキリストの愛を知っていると感じました。机に並べられたイエス様の絵は、どれもやさしい笑みを浮かべていました。私は先生に向けられたイエス様のやさしい眼差しを思い、胸に熱いものがこみ上げてきました。そして、神

様はもうすでに彼に働き始めていると感じ、心から主に感謝しました。

そして昨年7月末、先生は体調に異変を感じ病院で検査を受けられました。何と癌腫瘍が見つかり早速手術を受けることになりました。宮崎リトリート直前のある日、彼の生徒の一人である女性から彼の病気見舞いの件でお電話を頂きました。私はその方とそれまで2度お会いしたことがあるだけで、あまり面識のある方ではありませんでしたが、電話で話している内に、突然彼女が「電話の受話器を通して私の身体に熱いものが流れて来て涙が出るの。これは何？」と言われました。私の手も熱くしびれていたのも、彼女に「それはご聖霊の働きです」と伝え、私は自分がキリストを信じている者だと話しました。その方は「自分は神道の神を信じているけれど、イエス・キリストを信じたい」と話され、彼女は電話口でイエス様を信じるお祈りをされました。そしてその3日後の礼拝で彼女は洗礼を受け、その後、私は彼女の口から驚くべき事実をお聞きしました。数年前に彼女のご主人が自ら命を絶ち、そのショックで彼女は2年間放心状態が続き、心の傷を癒すためにこの町に越して来て、一人暮らしを始めたというのです。私は彼女が英語の先生と同じような苦しみを持っていたことが分かり本当に驚きました。そして主イエス様の鮮やかな救いのみわざに畏れを覚えました。そして、主が必ず先生をも救って下さると信じました。

リトリートの後、先生が無事に退院したという知らせを受け、私は久しぶりに彼のレッスンを受けました。私はレッスン中先生が気落ちしているように見えたので、彼の肩に手を置いてイエス様の御名で一言癒しを祈り、自分の席に戻りました。すると驚いたことに、彼は目に涙をいっぱいためて「一体何が起こったんだ。身体中が熱くてこんな暖かい気持ちになったのは初めてだ」と震えるように言いました。私は「それがイエス様の愛なのです。神様の愛のシールである洗礼を受けますか？」と言うと、先生は「すぐに受けてたい」と言います。私は英語で洗礼をした経験がなかったのですが、以前、もしもの時のために英語の洗礼の練習をしたことがあったことを思い出し、主に祈りつつ何とか先生に英語で洗礼をすることが出来ました。主の備えを心から感謝しました。

それにしても、キリスト教国の熱心なクリスチャンホームで育った彼が、キリスト教国でもない日本で、しかも牧師でもない普通の日本人のおばさんから洗礼を受けたことが、私にはとても不思議に思えました。これまでとは違う新しい時が始まった。イザヤ55章5節の御言葉が成就する時が到来したのだと、私は信仰で受け取りました。

見よ、あなたは知らない国民を招く、あなたを知らない国民はあなたの元に来て来る。これはあなたの神、主、イスラエルの聖者の故であり、主があなたに光栄を与えられたからである。
(イザヤ 55:5)

そして先生の洗礼を通して、私はもうすぐこの地に姿を現す「風の教会」を見る思いがしました。「風の教会」は、この地球の最後のそして唯一の希望です。そこには、救いを求めて世界中の人々が集まり、共に主をさんびすることでしょう。共に心を合わせて主をさんびすることは、愛し合うこと。その愛は神の愛と一つに響き合って全地を覆い、痛んだ地を癒し、愛の冷えてしまった人々に真の神の愛とイエス・キリストの十字架の救いを告げるでしょう。

「風の教会」はキリストの十字架そのもの、全てのものがこの十字架に帰る時が来たのです。そして私自身も「風の教会」となり、私の祈るその人に私が歩くその地に、キリストの十字架の愛と許しが成っていくのだと信じます。